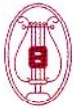


学園記念ホール
ステンドグラス



Information From

Nichi-On

—創立 102 周年—

since 1903

The Campus News 12月号

2005. 第 114 号

編集発行 学園事務局

日本音楽学校 幼児教育科 学生向情報

＜12～2月の行事予定＞

＜1年生＞

- 12/20(火) 保育研究発表会準備
- 21(水)～22(木) 保育研究発表会
- 23(金) 天皇誕生日(休校)
- 26(月) 冬期休業開始
- 1/1(日) 元旦
- 6(金) 授業開始
- 9(月) 成人の日(休校)
- 13(金) 教養講座「就職について」
- 20(金) 実習リエンション(保幼)
- 30(月)～2/3(金) 後期試験
- 2/6(月)～10(金) 追再試期間
- 11(土) 建国記念の日(休校)
- 13(月)～17(金) 幼稚園実習(保幼)
- 20(月)～3/4(土) 保育園実習(保幼)

＜2年生＞

- 12/20(火) 保育研究発表会準備
- 21(水)～22(木) 保育研究発表会
- 23(金) 天皇誕生日(休校)
- 26(月) 冬期休業開始
- 1/1(日) 元旦
- 6(金) 授業開始
- 9(月) 成人の日(休校)
- 30(月)～2/3(金) 後期試験
- 2/6(月)～10(金) 追再試期間
- 11(土) 建国記念の日(休校)

行事予定は追加・変更になることがありますので学内掲示等に注意して下さい。



12月28日(水)～1月4日(水)は事務局閉館となります

保育研究発表会に向けて 専任教員 並木真理子

12月21日・22日の両日、日本音楽学校 保育研究発表会が行われます。

2年生は、今まで学んだこと、経験したことを生かして、特別卒業研究として、それぞれの選択（舞台・展示プレゼンテーション）ごとに発表を行います。舞台発表を選択した学生のみなさんは、子どもが参加する舞台づくりを行います。自分達が主役ではなく、子ども達が観客でありながらも主体的に関われる舞台づくりが求められるのです。なぜならそれこそが保育の原点だからです。保育士が中心となつての保育では、子どもの可能性を伸ばす保育はできないことをこの1年半で学んできましたね。子どもが楽しい、もっと参加してみたいと思う舞台を作るには、子どもは何に興味を持つのだろう、子どもが楽しいと感じる表現とはなんだろうという視点を持つことが大切です。そして、参加するメンバーの気持ちが一つにならなければ子どもに伝えたいことが伝わりません。限られた時間の中で、子どもと一緒に作り上げる舞台を目指してください。

展示プレゼンテーションを選択した学生のみなさんは、各指導教官のもと、自分が学んできたものをさらに深く掘り下げた研究が求められます。一つのテーマでも知的探究心を持って取り組めば、限りないほど学ぶことは広がっていくでしょう。自分が何を学びたいのか、どのような研究をし、自分の力として身につけていくのかをよく考え、有意義な研究にしていってください。

1年生は、はじめての保育研ですね。「四季」をテーマに舞台を作るわけですが、おのおのがどのようなイメージを持ち、それを表現していくか、何度も何度も話し合いが必要になっていきます。誰かがやってくれるのではなく、一人一人が主体的に関わっていかなければ、いい舞台はできません。仲間同士ぶつかり合うことから生まれてくる発想の広がりや、作り上げる充実感を体験してください。その力は、必ず今後のあなた自身を支えることでしょう。

みなさんが主体的に取り組み、熱のこもった舞台と発表を作り上げることを期待しています。

教養講座 「オペラ」について 保幼1C 森岳之

去る10月28日の教養講座では、藤原歌劇団他で大活躍されている有銘哲也先生をお迎えし、オペラについての講演が行われました。

とても人間業とは思えぬ圧倒的大声量で颯爽と登場された瞬間、会場の全学生が驚愕し、その声から滲み出る平生の不断の鍛練を見させて頂いた思いでした。そして、オペラの起源と現在に至るまでのスタイルの変遷についてご教示賜った後、三小田先生、陸路先生との共演で会場は更なる熱意と一体感に包まれ、この度の教養講座は幕を閉じました。

終演後、有銘先生に発声に於ける身体各部の緊張と弛緩の均衡について質問しましたところ、実に具体的に、親身になって指導して下さいました。ある公民権運動指導者は「常にその相手が理解できる言葉で教えるべきだ」という台詞を残していますが、まさしく有銘先生はこの事を体現されていた様に思います。この姿勢は、目の前の相手が何を必要としているのかを汲み、どう援助するのか、という一つの本質に合致するのではないのでしょうか。

開演前の諸注意に象徴されますように公共の場に於けるモラル、マナーの低下は子どもは勿論、保護者にも見られる世の中全体の傾向です。即ち、そういった現状に歯止めをかけるべき我に保育者を目指す者が、そこに輪をかけてしまう形になるのはとても残念なことです。

とかくせわしない現代、身の周りにはあらゆる物事が起こり、膨大な情報が氾濫しています。その溢れる情報の洪水を、只漠然と受け流すのではなく「視点」をもって見直してみますと、何らかの収穫・学びといったものが浮かび上がってきます。特に1年生はこれから実習などが始まりますが、日々こういった意識を掲げみなさん一緒に頑張っていきましょう。



開かれた学校、期待される学校

11月5日(土)、80名以上のお客様を迎えて第3回公開講座『家族で楽しむコンサート Piano & Talking』が開催された。今年は家族で音楽を身近に楽しんでいただくという意図のもと、第1部は幼児教育学科である本校の教育内容や100年を越す歴史の中に登場する本校卒業の作曲家や同時代人の作品や品川という土地に馴染みのある唱歌などで構成した子どもたちのパート、第2部はガラッと変わり西洋のクラシック音楽で構成されていた。本校講師4名に加えてコーラス部学生が参加した手作りの音楽会だった。

公開講座は「東京都教育の日」推進事業に本校が参加し、外部の方に向けて独自に企画運営している行事だ。今回は小さな子どもからおじいさん、おばあさんまで、学校近隣の方が多数参加して下さった。

会場の反応はよかった。曲の合間に語られた曲や作曲家、そして本校の歴史の話に耳を傾け、鉄道唱歌をお客様も一緒に歌う場面もあった。まさに“家族で楽しむ「Piano & Talking」”だった。

学校は地域の理解を得なければならないと、よく言われる。学校が出す騒音、学生のマナーなど、学校に無関係の人にとっては迷惑なものばかりだ。そういう日陰の部分克服しつつ、日音が持つ光の部分アピールしたいという姿勢から公開講座が誕生した。少しずつだが、日音の新しいプロジェクトは地域に愛され、期待されは始めている。

今回の行事に地域の方が足を運んで下さった。コンサート終了後には「楽しかった」との感想はもちろんだが、「もっと作曲家の写真があると印象深かったと思う」、「子どもが楽器に触れる場面があるとよかった」などの声や、次回への要望がアンケートに寄せられていた。学校への期待だ。地域に受け入れられている証と言えよう。

学校長による挨拶では、今回のタイトル「Piano & Talking」の由来や、「くるみ割り人形」と坪内逍遙の「変化雛」にまつわる話が語られた。東西音楽と文化・文芸に対する興味・関心が深まる話だった。教育的観点、そして地域との共生を目指す意味でも、表現を中心とした幼児教育者養成機関としての今回の催しは成功と言えよう。

同窓会『幼児教育部会』役員会開催

昨年12月25日、保育研究発表会の最終日に発足した同窓会『幼児教育部会』の第一回役員会が11月5日(土)に同窓会副会長新井氏を迎えて開催されました。部会の会長は本年5月の教養講座に講師としてみえた吉澤隆幸先生(H5年卒)、副会長は前期保幼コース2年生の保育指導法総論の授業を担当されていた瀬沼幹太先生(H10年卒)です。当日は、部会役員の他にオブザーバーとして数名の卒業生が参加し、活発な意見交換が行われました。

今後は同窓生の親睦、勉強、学校や在校生への支援を目的に活動が展開される予定です。在校生の皆さんが参加できる研修会も計画中です。楽しみにお待ちください。

